

令和4年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	長久手市	
施 設 名	長久手市文化の家	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	6,872	(千円)
	公 演 事 業	2,842 (千円)
	人 材 養 成 事 業	3,369 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	661 (千円)

(1) 令和4年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	東京大学先端技術研究センター×長久手市連携企画「ハイキングコンサート」	R4. 10. 30	<p>＜色金山歴史公園＞弦楽五重奏曲第2番 ト長調作品 77 より第1楽章(A. ドヴォルザーク) ⇒＜香流川緑地＞戦いの組曲(S. シャイト), 空想・夢・おもちゃ(G. ファーナビー)⇒＜多度神社＞17世紀の古いハンガリー舞曲(ファルカシュ.F), ノヴェレッテ(F. プーランク(G. エマーソン編))⇒＜つむぎて園場＞ジークフリート牧歌(R. ワグナー)</p> <p>【出演】近藤薫(1st ヴァイオリン), 荒井 里桜(2nd ヴァイオリン), 兎仁井 かおり(ヴィオラ), 広田 勇樹(チェロ), 渡邊 玲雄(コントラバス), 橋本 岳人(フルート), 大島 弥州夫(オーボエ), ブルックス トーン 信雄(クラリネット), 滑川 敬一(クラリネット), 田作 幸介(ファゴット), 安土 真弓(ホルン), 西條 貴人(ホルン), 井上 圭(トランペット), 宮本 弦(トランペット), 倉田 寛(トロンボーン), 林裕人(チューバ)</p>	目標値	600
		長久手市内(色金山歴史公園、香流川緑地、多度神社、つむぎて園場)		実績値	10/27 事前小学校鑑賞会 666人 10/30 ハイキングコンサート本番 32人
2	名演への招待シリーズ 20 パトリシア・コパチンスカヤ ヴァイオリンリサイタル	R5. 3. 14	<p>幻想曲 作品 47 (A. シェーンベルク)、ヴァイオリン・ソナタ第7番ハ短調 作品 30-2 (L. v. ベートーヴェン)、4つの小品 作品 7 (A. ウェーベルン)、ヴァイオリン・ソナタ第9番イ長調作品 47 (クロイツェル) (L. v. ベートーヴェン)</p> <p>【出演】パトリツィア・コパチンスカヤ (ヴァイオリン)、ヨナス・アホネン (ピアノ)</p>	目標値	300
		森のホール		実績値	358
3	JAZZ 長久手～やっぱりジャズはイイ!	R5. 2. 10	<p>DADA, VAIDA, DANU, DEAR 等</p> <p>RS5pb (RUIKE SHINPEI 5 piece band)</p> <p>類家心平(トランペット)、中嶋錠二(ピアノ)、田中”tak” 拓也(ギター)、鉄井孝司(ウッドベース)、吉岡大輔(ドラム)</p>	目標値	150
		風のホール		実績値	204

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和4年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	長久手市劇団 座☆NAGAKUTE	R5. 3. 18-19 3回公演	演目「風立ちぬ」 出演：長久手市劇団 座・NAGAKUTE 指導/演出：佃典彦	目標値	座☆NAGAKUTE 第33回公演 450名
		風のホール		実績値	411※
2	創造スタッフ事業	年間	児童館音楽デリバリー、小中学校アウトリーチ、劇場上演作品制作等 契約業務 小西祐矢（美術系創造スタッフ） 大脇ぼんだ（演劇系創造スタッフ） 小田智之（音楽系創造スタッフ） 弓立翔哉（音楽系創造スタッフ） 高野葵（美術系創造スタッフ） 林友里菜（舞踊系創造スタッフ）	目標値	6人（創造スタッフが実施する事業の入場者・参加者数約2,000人）
		文化の家 長久手市内		実績値	1,311
3	フランチャイズアーティスト（福祉領域）		対象外	目標値	1人（フランチャイズアーティストが実施する演奏会の参加者数800人）
				実績値	
4	アートスクール講座「戯曲セミナー講座及び発表会」	R5. 3. 11	創作戯曲の制作講座と上演 第1話『めがね』（作・つげ周爾） 第2話『コンビニ劇場』（作・黒川ゆかり） 第3話『ゲームオーバー』（作・田村優太） 第4話・遠く別上演『金の鈴』（作・市瀬佳子） 第1話：荘加真美、台越竜太郎、石川朋未、太田竜次郎 第2話：和田美夏子、田村優太、中島大貴 第3話：林優花、二瓶翔輔 第4話：堀合真由、空沢しんか、小湊悠 指導・演出 はせひろいち（劇団ジャブジャブサーキット）	目標値	参加者数：30人 発表会来場者数：200人
		風のホール		実績値	13人 発表会入場者数 74人

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和4年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	エデュケーショナル・プログラム 小学校であーと	①R5. 2. 2 ②R5. 2. 8 ③R5. 3. 8 ④R5. 2. 16 ⑤R5. 2. 22 ⑥R5. 3. 10	【出演】 ①平光広太郎(ピアノ)、天木瑠里子(クラリネット、ヴォーカル) ②③弓立翔哉(パーカッション)、小田智之(キーボード)、林友里菜(コンテンポラリーダンス) ④⑤猪子奈津子(ヴァイオリン)、角美吹(ピアノ) ⑥大橋音子(サクソフォン)、安成紅音(ピアノ)	目標値	740人
		①長久手私立西小学校 ②長久手市立東小学校 ③長久手市立北小学校 ④長久手市立長久手小学校 ⑤長久手市立南小学校 ⑥長久手市立市が洞小学校		実績値	740人
2	エデュケーショナル・プログラム 中学校であーと	①R4. 6. 2/6. 8 ②R4. 6. 28 ③R4. 7. 7	①福本真琴(チェロ)、福本真弓(ピアノ) ②小松大(フィドル)、長尾晃司(ギター) ③平光広太郎(ピアノ)、早川ふみ(サククス)、出宮寛之(ベース)	目標値	540人
		①長久手市立長久手中学校 ②長久手市立長久手北中学校 ③長久手市立長久手南中学校		実績値	682人
3	文化と地域デザイン講座	①R4. 7. 24 ②R4. 11. 20 ③R4. 1. 8	①富澤 武幸(NPO 法人東京高円寺阿波おどり振興協会専務理事・事務局長)、 ②菅原ゆうき(兵庫県立ピッコロ劇団 俳優) ③中本正樹(小美玉市生活文化課 四季文化館 みの〜れ 課長補佐) 聞き手: 松本 茂章(文化と地域デザイン研究所代表)	目標値	300名 (各回100名×3講座)
		光のホール		実績値	61
4	平日マチネコンサート 「午後の佇み」	①R4. 7. 13 ②R4. 8. 2 ③R4. 11. 25 ④R5. 2. 17	①劉鉄鋼(二胡)、越智健二(ピアノ) ②荒川智美(フォルテピアノ) ③平光真弥(ヴァイオリン)、平光広太郎(ピアノ)	目標値	100人×4公演
		森のホール		実績値	548

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p> <p>公演事業として実施した「ハイキングコンサート」は、自然のなかを歩きながら各スポットで音楽を聴く試みで、参加者に新たな感覚を引き起こし、自然との共生や感性の向上を促す社会的な役割を果たしている。長久手市は市街地と自然が共存しており、2022年に新たに開園したジブリパークなども含めて自然に対する関心が高まっている。ハイキングコンサートは地域の特性に合わせたアート体験の提供と、地域とアートの関心のマッチングを図る適切な取り組みだったといえる。</p> <p>他の公演事業として、世界的な注目を集めているヴァイオリン奏者のパトリツィア・コパチンスカヤを招聘し、マスタークラスやコンサートを通じて新しい音楽体験を提供した。また、10年前から毎年開催しているJAZZ長久手では、ライブハウスに足を運んだことのない客層をターゲットとし、日本屈指のジャズトランペッターの類家心平が率いるジャズバンドRS5pbを招いた。最先端のジャズを聴き慣れていない客層からは賛否の声があったが、新しい音楽体験を提供できたといえる。</p> <p>人材養成事業では、若手アーティストと文化施設が契約する「創造スタッフ」制度を実施し、6人のアーティスト（音楽、美術、演劇、ダンス）が採用された。長久手市文化の家独自の企画を創出したほか、異なるジャンルの創造スタッフ同士のコラボレーション企画も多数実施することができた。</p> <p>普及啓発事業では、市内の小中学校（全校）へのアウトリーチを行い、小学生は4年生全員、中学生は1年生全員に音楽アウトリーチを行った。主に長久手市内にある愛知県立芸術大学の学生によるアウトリーチで、完成まで職員と何度もプログラムを考え調整することで、経験が不足している芸大生の育成にもつながっている。最終的には各々の持ち味を生かして、音楽に対する子どもたちの興味、関心を引き出すことができた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>ハイキングコンサートは、自然とアートの融合を通じて参加者に感性や創造性を刺激し、新たな芸術体験を提供した。この事業は地域の文化の振興やアートへの関心喚起に寄与し、文化的な価値を創造している。地域住民や移り住んできた人々に対して音楽に関心を持たせるとともに、地域の活性化と交流の場を提供している。参加者の増加や口コミの拡散により、地域経済の活性化にも寄与していたと考えられる。また、公演に先立ち開催された「てつがくカフェ」（ワークショップ）などの付帯イベントを通じて、出演者と参加者との交流が促進され、地域の絆やコミュニティ形成にも寄与した。</p> <p>人材養成事業と、普及啓発事業では共に、若手アーティストの育成に大きく貢献した。市内芸術大学の学生がアウトリーチにはじめて取り組むことで、自身の社会での存在意義を考察し、社会とのつながりを意識する大きな機会となった。アウトリーチに参加した学生が、この地域でアウトリーチ活動を行う新たなアーティストになることが期待される。また、創造スタッフについても、新たな企画を生み出す経験を積む中で、地域の中核となるアーティストに育つ可能性を持っている。</p> <p>以上のことから、助成に値する意義が継続して認められるといえるだろう。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

公演事業については、【目標①】公演の最高評価の満足度を75%まで増加させるという目標のもとで事業を展開したが、実際の結果が68%で、目標値に到達していない。しかし、最高評価と好意的な評価を合わせると9割の参加者が満足しており、肯定的な評価は得ている。また、アンケートの自由記述では、「参加して本当によかった」との声を多数いただいたことから、参加者にとって意義のある事業を実施できたといえる。

【目標②】未成年層の参加率を25%まで増加させるという目標に対しては、実際の結果が13%という数字であり、未成年層を対象にしたアピールやプロモーションが結果的に不十分であったといえる。事業の定員数の問題もあり、13%という割合が一概に低い数字とは言い切れないが、今後未成年層へのアプローチが課題であるといえる。

【目標③】地域の中核劇場として「初めて劇場に来た」人を30%以上にするという目標に対して、実際の結果は20%であった。前年よりは初めて劇場に来た人の割合が増加しているが、目標値の達成には至らなかった。新たな客層にアピールできるような新規事業が必要といえる。特に、未成年層の参加率には改善の余地があるため、SNSによる広報の強化や、未成年層をターゲットとした広報戦略などを今後の新しい課題と捉え、有効な方法を試していく必要がある。

人材育成事業の目標として、【目標①】は市劇団の市内在住者の割合を45%まで増加させることだったが、33%にとどまっている。昨年と団員の顔ぶれが変わっておらず、新規入団者の獲得に至らなかった。継続的な広報活動や入団者の拡大に向けた施策を検討し、今後は目標達成に向けたさらなる取り組みを続ける必要がある。【目標②】は地元アーティストによる自主企画公演を年間20件以上実施することだったが、実際の数字は15件と目標には届いていない。しかしながら、地元アーティストの自主企画公演は年々増えており、目標値へと近づきつつある。アーティストとの協力体制を強化し、さらなる自主公演を実施していくことが求められる。【目標③】は劇場を出て、外の施設やイベントなどでの演奏回数を年間30回以上実施することだったが、実際の数字は20回となっており、目標値が高かったといえる。マンパワーの問題もあり、年間に実施できる数は限られているが、1回ずつの実施内容を効率化し、さらなる外部施設やイベントへの参加を促していく必要がある。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演事業のハイキングコンサートには、半年以上の準備期間を費やしたことから、余裕をもって事業計画に時間を充てることができた。準備にかけた時間と結果とのバランスはとれているといえる。しかし、費やした時間とマンパワーを考慮した際に、ハイキングコンサートの定員数（参加者数）は事業の性質上少なく設定せざるを得ず、効率性の高い事業とはいえない。しかしながら、参加者からの声やメディアの取り上げ方などを評価すると、実施する意義のあった事業であったことは明らかである。他の2つの公演事業に関しては、事業期間は適切であり、当初の計画通りに進めることができた。

人材育成事業に関しては、市劇団は半年以上の期間をかけて定期公演を滞りなく準備、稽古することができ、結果としてたくさんの集客と参加者からの高い評価を得た。創造スタッフに関しても、年間スケジュールに沿って活動でき、当初の予定以上に年間で制作される企画が多く、効率性という観点では大きく評価できる。

普及啓発事業についても同様の評価ができ、計画から大きく逸れることなく事業を実施することができた。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演事業のハイキングコンサートに関しては、当初の予算から大きな変更はなく適切な執行をすることができた。しかし費やした費用に対して、定員数（30人）のみという限定的な参加者数での開催となったため、費用面では非常にバランスの悪い結果となった。演奏者への支払いが高額であり、費用の回収はあまりできていない。スタッフ面の費用では、職員で運営、引率、伴走、救護、会場準備等のすべてを行い、委託費用などは発生していないため、費用支出は最小限に抑えることができた。

パトリア・コパチンスカヤ公演に関しては、来日のタイミングを狙い公演を依頼することで、その渡航費等の部分を最小限に抑えることができ、当初の計画通りの支出に抑えることができた。話題性や、来場者の満足度を考えると長久手市と文化の家のプロモーションにもつながっており、事業費は適切な支出であったといえる。JAZZ 長久手は、地域で JAZZ ミュージシャンたちとのつながりのある地元キーパーソンを巻き込むことで、費用面での相談・調整が可能となり、低予算でクオリティの高い公演を実施することができた。

人材育成事業については、創造スタッフの契約費の中で、いくつもの事業を実施しており、費用に対しての効果は非常に高いものとなっている。

普及啓発に関しても、学生を起用して育成することで、費用を抑えた適切な運営がされている。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

公演事業において、ハイキングコンサートは新たな芸術体験を得たという声が多く寄せられた。まだ実施したことのない方法での音楽鑑賞ができた点で、創造性の高い事業といえる。

パトリツィア・コパチンスカヤのコンサートおよびマスタークラスでは、世界的な注目を集めるヴァイオリン奏者を招聘し、地域に新たな音楽体験を提供できた。参加者は彼女の演奏を通じて、卓越した音楽の世界に触れ、感銘を受けている。この事業によって地域の音楽愛好家や音楽大学生、演奏家たちに刺激とインスピレーションを与え、地域の音楽文化の向上に寄与した。国際的なアーティストの参加によって、地域の文化拠点としての機能が最大限に発揮されたといえる。

JAZZ 長久手は、国内屈指の若手ジャズトランペッターを招き、地域のジャズ愛好家や演奏家たちに最先端のジャズ体験を提供した。この事業によって、クラシック音楽とは異なる層の参加が増え、地域の音楽コミュニティの多様性が広がったといえる。

人材育成事業では、若手アーティストの成長と創造性の発揮を重視しており、劇場の自由な使用や共同制作の経験を通じて彼らの創造力を引き出す試みをしている。創造スタッフ事業では、劇場の提供する場所や資源を活用しながら、アーティストが独自のアイデアや表現方法を実験しながら追求できる環境を提供しており、アーティストと劇場の個性を融合させた独創的な企画を立案することができた。また、他の芸術分野とクロスさせた企画も生み出しており、新たな芸術表現の可能性を模索することにつながっている。

普及啓発事業においては、小中学校アウトリーチにおける音楽アウトリーチのプログラムをゼロから組み立てるという作業をとおして、若手音楽家の育成を行うとともに、長久手オリジナルのアウトリーチプログラムの創出につながっている。また、アーティストの姿を見た子どもたちが自身の将来について考えるきっかけとなり、多様な生き方を学ぶ機会ともなっており、新しい世代の創造活動を育むことにつながっている。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

公演事業のハイキングコンサートにより、地域の自然環境への関心や保護意識が高まり、音楽と地域の自然を結びつけることにつながった。また、パトリツィア・コパチンスカヤやRS5pbなどのアーティストを招聘したコンサートやマスタークラスは、地域の住民が文化芸術にふれる機会の創出に大きく貢献した。これらのアーティストの参加によって、地域の音楽シーンに新たな刺激と影響をもたらし、新たな創造の芽を育むことにつながっている。地域の音楽愛好家や演奏家たちが、彼らの演奏や指導を通じてこれまでにない新たな音楽体験を得ることができたことは、公演のアンケートやSNSでの反響などからも読み取ることができた。また、地域外からも多くの参加者が訪れ、長久手や長久手市文化の家の知名度、魅力を高めることに成功したといえる。これにより、将来的な観光客や文化交流の増加も期待できる。

また、人材育成事業や普及啓発事業は、地域の文化芸術を担う次世代の人材育成に貢献しており、地域の若手アーティストや学生たちに実践的な学びの機会を提供した。この2つの事業は密接に関わっており、アーティストの育成が結果的に、住民への文化芸術の普及啓発につながっているともいえる。地域内の芸術人材の育成や、地域の文化芸術体験により、次世代へ地域の文化芸術が継承され、結果的に地域のさらなる発展に貢献している。こうした事業を展開する際に、文化の家は地域の文化拠点としての機能を発揮し、成果を生み出したと考えている。地域の実演芸術、芸術家を育てることは、地域のアイデンティティ形成やコミュニティの結束力強化にも寄与する。地域の伝統や歴史などを、文化や芸術を通じて表現することで、地域住民は自身のルーツや地域の誇りを再確認し、共有する機会を得ることができる。長久手市文化の家でしか創造することのできない長久手クオリティの反映された企画は、長久手市の文化芸術の発展や地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮するために重要なものであり、創造性に富んだ事業によって、長久手市にとって大きな成果を生み出したといえるだろう。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

公演事業のハイキングコンサートは、地域住民とのつながりをうみながら、これまでにない音楽体験を提供するという価値を創出した。しかし、持続性の観点では、費用対効果の問題や、動員できる参加者数に制限があることなどから、事業の継続性に関しては低いと言わざるを得ない。しかし、参加者らからも継続した実施を求められており、今後はより低予算で規模を縮小して開催できるような工夫が必要といえる。

他の公演事業は、予算内で十分な効果を発揮しており、参加者からの評価も高いため、継続的な実施が可能であると判断できる。

人材育成事業と普及啓発事業では、市内に芸術大学があるという地域の特性から、今後も継続的に新しいアーティストが育っていく環境が整っており、持続可能な状況にあるといえる。創造スタッフ事業では、アーティストが継続的に活動できる環境を提供し、アーティストの成長と継続的な支援を通じて、人材の持続的な育成を目指している。そして、こうした地域のアーティストが小中学校でのアウトリーチなども行うことで、地域の持続的な文化芸術の発展に大きな役割を担っている。継続的なアーティストの育成の実施により、アーティストと地域住民との関係性も築かれ、地域のなかで文化芸術が育っていくことが予想される。

また、地域の関連団体との協力も重視しており、市の観光交流協会などとも連携し、地域のまちづくりの発展にも寄与していけるだろう。持続的な文化芸術活動により、地域社会からも劇場の活動に支持を得ることが可能であろう。

これらの成果により、今回の3つの助成事業は、地域の文化拠点としての機能を発揮した事業を実施できたと評価できる。地域の実演芸術や文化芸術の振興を通じて、地域の誇りや関心を喚起し、音楽文化の持続的な成長と発展を促進するために、今後も上記の取り組みを持続的に実施していくことが求められているといえるだろう。